

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会 | Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

「北海道熊研究会」 Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

会報の前号(47号)で、2015年1月26日に、北海道東部の標茶町の民有林で、山林の枝打ちをして居た村上豊さん64歳が、穴から飛び出てきた熊に襲われ頭部損傷で死亡する事故が発生した事。さらに、<同年2月2日、道東の厚岸町の国有林で、毎木調査中の岩田正則さん74歳がやはり、穴から飛び出てきた熊に襲われ負傷する事故が発生した事を記した。いずれの穴も入口が大きく、熊が瞬時に飛び出る事が出来るサイズであり、同様の事故が、門崎が熊の研究を始めた1970年以降、この種の事故は今回の2件を含めて今日まで、8件発生しています。加害熊は8件中、5件が母熊です。予防の手立ては、熊研究会報第46号と47号に記してあります。

<8件の内訳> 「野生動物調査痕跡学図鑑」と「ひぐま：北海道新聞社刊」に記載済み。

入口のサイズ(横幅×縦幅) cm

|   |      |    |    |   |      |    |   |   |    |      |    |       |
|---|------|----|----|---|------|----|---|---|----|------|----|-------|
| ① | 1975 | 4  | 8  | 日 | 長万部町 | 53 | 歳 | ♂ | 負傷 | 毎木調査 | 雄熊 | 90×40 |
| ② | 1976 | 12 | 2  |   | 下川町  | 54 | 歳 | ♂ | 死亡 | 除伐中  | 母熊 | 67×40 |
| ③ | 1977 | 4  | 7  |   | 滝上町  | 39 | 歳 | ♂ | 負傷 | 除伐中  | 母熊 | 52×53 |
| ④ | 1980 | 2  | 25 |   | 佐呂間町 | 50 | 歳 | ♂ | 負傷 | 除伐中  | 母熊 | 60×60 |
| ⑤ | 1990 | 3  | 7  |   | 芦別市  | 52 | 歳 | ♂ | 転倒 | 毎木調査 | 母熊 | 77×55 |
| ⑥ | 1995 | 2  | 13 |   | 紋別市  | 52 | 歳 | ♂ | 負傷 | 除伐中  | 雌熊 | 68×52 |
| ⑦ | 2015 | 1  | 26 |   | 標茶町  | 64 | 歳 | ♂ | 死亡 | 枝打ち  | 母熊 |       |

⑧ 2015 2 2 厚岸町 74 ♂ 負傷 毎木調査 単独(性別不明)

<アイヌが言う熊の冬籠りの生態>

これについてBatchelorがアイヌの考えを書いて居る(The Ainu and Their Folk-Lore, 1901, p. 472)。アイヌが言うには、春に冬籠り穴から熊が出て来た時、太った状態が出て来るから、熊は穴の中で何かを食べているに違いない。そこである者が言うには、①穴に籠る前の秋の内に、穴の中に魚と食草を貯め、これを熊は冬籠り中食べているのだと。②ある者は土を食べて居るんだと言う。③またある者が言うのは、穴に入る前の秋に、熊は蟻の巣を暴いて、巣から湧き出てくる蟻とその蛹などを手足で踏みつけて、それらの厚い塊を造り、それを手の掌部に付着させ、冬籠り中に目覚めた際に、それを舌でなめり、それで太るのだと言う。この③の考えは、千島アイヌについて鳥居龍蔵が、また本州の月の輪熊について、天保六年(1835)に越後の鈴木牧之が書いた名著「北越雪譜」にも出ている。この考えは熊類が蟻類を好んで頻繁に食べるのと冬籠り中の熊を射って胃の中を見ると、手足の脱落した皮膚が入っていることがあるので、これが原因で作られた想像の話である。熊が採食せずに冬籠りする生態は狩猟民族にとって不思議であり、羨望でもあったので、上記以外にも色々な事が想像で言い伝えられている(Hallowell, 1926, p. 27~30)。

<冬籠りとは>

熊が食い貯めをして、冬季間、絶食状態で穴に籠って過ごすことをいう。身体に十分な養分を蓄えているので、決して栄養的に窮乏の生活ではない。悠々自適の休養の時期と言えよう。

<熊の冬籠り穴>

北海道の熊が冬籠りに使う越冬穴は山の斜面に熊自ら掘って造った横穴状の土穴である。他の熊が同じく山の斜面に横穴状に掘り造って使った後、放棄した土穴(横穴)を改善などして使うこともある。岩や木の洞など自然にある洞がそのままの状態でも全越冬期間冬籠り穴として使われることはまずない。

次号に続く： (了)